

公立大学法人

福岡女子大学広報

Fukuoka Women's University

No. 98
Spring

2017



Contents

平成29年2月19日撮影

国際交流	
CASEUF創設	2
WJC閉講式	2
地域交流	
生涯学習カレッジ2016修了	3
合唱同好会クリスマスコンサート	3
「そばうち」―素敵な体験	3
卒業生の声	4
修了生の声	6

退職にあたって	7
TOPICS	
熊本県立大学との連携	10
文化庁平成28年度	
「大学を活用した文化芸術推進事業」...	10
客員教授就任	11
ウッドデザイン賞連続受賞	11
社会人学び直しシンポジウム	12
成果発表会	12

活動報告	
県議会訪問	13
7人でつないだ42.195km	13
公開講座	14
国際化推進基金	15
人事消息	15

国際交流の今

東南ア・欧州の9大学と研究者ネットワーク 「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡(CASEUF)」

国際化推進センター

福岡女子大学は、東南アジア諸国連合(ASEAN)と欧州連合(EU)域内の有力9大学に本学を加えた10大学をメンバーとする「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡(CASEUF)」を創設し、2016年12月21日にメンバー大学代表の参加を得て、設立会議を開催しました。

2011年に設立した「アジア地域大学コンソーシアム福岡(CAUFUK)」の成果を基盤とし、新たにEU域内の4大学を加えて若手研究者の交流と共同研究を推進します。国際地域連合体の課題を検討する意味で、EU離脱を表明したイギリスの大学も参加しています。

研究者交流を軸として、ネットワークを活かした学生交流や事務系職員の能力開発を促進する活動も展開することで、幅広い大学人材の交流を活性化します。これにより、本学の国際化と教育・研究・行政全般の組織強化を企図しています。2017年度にはCASEUFサマーコースや遠隔講義による国際共同教育にも取り組む計画です。

参加大学：

【EU】

ミュンヘン大学(ドイツ)、ルーヴァン大学(ベルギー)、
ワルシャワ大学(ポーランド)、マンチェスター大学(イギリス)

【ASEAN】

マヒドン大学(タイ)、タマサート大学(同)、
ガジャマダ大学(インドネシア)、
ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)、
アテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)



2016年度秋学期WJCプログラム閉講式

国際化推進センター

2月10日(金) WJCプログラム(The World of Japanese Contemporary Culture Program) 2016年度秋学期の閉講式を挙行了しました。

閉講式では、向井副学長による修了証授与や、WJC修了生によるスピーチが行われました。秋学期のみで修了し帰国する学生は3名のみでしたが、プログラム参加者の多くは、次の春学期も在籍し、現代日本文化および博多伝統文化(どんたく、博多山笠祭りなど)を学びます。WJC開講科目は主に英語で行われており、本学学生も聴講可能です。寮での異文化交流体験とともに、留学生と一緒に授業を受けることで「学内留学」をしていただくことを期待しています。



地域交流の今

生涯学習カレッジ2016修了

地域連携センター



今年度で2年目となる「生涯学習カレッジ2016」が修了しました。生涯学習カレッジは、“感性”を学習の柱とした全13回のシリーズ講座で、そのうち8回は学外で開催しました。

前半は『文化芸術と地域の歴史』をテーマに、西部伝統工芸展や香椎宮などを見学しました。受講された方は講師の解説を聞くことで、より理解を深めることができたようです。

後半は『食文化』をテーマに、フレンチレストランでワインの基礎を学んだり、「博多の食と文化の博物館ハクハク」でめんたいこの漬け込み体験をしたり、五感を使って楽しみながら学ぶ機会となりました。

来年度も受講者の皆様にご満足いただけるよう、アクティブなカレッジを目指していきます。



合唱同好会クリスマスコンサート

合唱同好会 中村 円香

私たち合唱同好会は2016年12月18日、大学近くの老人福祉センター東香園さんと香住ヶ丘杜の家さんで、クリスマスコンサートを開かせていただきました。コンサートをするのはこれが2回目です。今回は参加できる部員が4名のみでしたが、少数精鋭ということで暖かく迎え入れてくださいました。



披露した歌はこの年のかすみ祭で歌ったスタジオジブリの曲や、クリスマスらしいジングルベルなどです。今回も歌詞カードをお配りしたところ、私たちと一緒に大きな声で歌ってくださる方がたくさんおられ、とても嬉しかったです。合唱だけでなく皆さんとおしゃべりする時間も設けたのですが、こちらも非常に盛り上がり、「来年も待ってますね」との声をいただきました。今後も練習に励み、様々な活動をしていきたいと思っています。



「そばうち」ー 素敵な体験

WJC留学生(ベトナム国家大学ハノイ校) Tran Thi Minh Phuong

日本の文化と言えば、日本料理に深い興味を持っています。福岡で留学している間、できるだけ日本料理の作り方を勉強したいと思う私は、1月15日に「そば打ち」という素晴らしい体験をしました。

その日、そばの作り方を教えてくれたのは数十年の経験がある蕎麦屋さんだったので、大変光栄だと思いました。まず、皆は先生がそばを作るのを見て、その後、一人ずつ「そばうち」を体験しました。実際にした時、思ったよりとても難しかったです。そばは粉と水だけから作られるので、粉に必ず適切な水量を入れることは大切なステップでした。そして、私の手が小さすぎるから、蕎麦



粉を練るのも、大きな包丁でそばを薄く切るのもなかなか難しかったです。でも、そばの先生が親切に教えて、応援してくれたおかげで、だんだん良くていきました。

先生に褒められて、凄く嬉しかったです。最後に、皆で自分が作った蕎麦を一緒に食べました。なんとなく前に食べたすべての蕎麦より美味しかった気がしました。

私にとっては、「そばうち」は本当に素晴らしい体験でした。これからも、留学生生活を大切にして、素敵な体験を楽しみにしています。



卒業生の声

邂逅

国際教養学科 日本語文化履修コース

嶋村 美穂



四年間は、素敵な方々、未知の事との出会いの連続でした。

書道部では、顧問の鶴先生に、字の外形を真似る「習字」とは違う、「書道」の奥深さを教えていただきました。また、目標となる先輩と出会えたのも、友人、後輩に多く支えられたのも部活動でした。

卒業研究では、月野先生に大変お世話になりました。先生やゼミの金子さんと一緒に考えていく中で、考え足りないこと、難しく考えすぎていたことに気付くことが多々ありました。目から何度鱗が落ちたかわかりません。大変でしたが、自分の考えが形になっていくのはとても楽しかったです。先生と金子さんには、感謝してもしきれません。

これからは社会人として、福岡女子大学で学んだことを胸に、精一杯頑張ります。



しあわせ

国際教養学科 欧米言語文化履修コース

八木 萌

大学生活は、興味のあることを思うままに追求できた幸せな日々でした。自らの足で経験した様々な出来事が今の私を形作っていると思います。ここで出会った友人も皆それぞれ自分の好きなことを熱く追いかけていました。私の知らない世界を知っている彼女達と会話することは、まさに“異文化交流”でした。この四年間で、何かが劇的に変わったわけではないけれど、以前は笑えなかったことが笑えるようになったり、疑問に思わなかったことを疑問に思

うようになったりと、見える範囲が広がったように思います。価値観に幅ができただけでも、大学にきてよかったです。そして、それはいつも心の支えになってくれた両親、沢山の時間を共有してくれた友人、学びを与えてくれた先生方のおかげです。本当にありがとうございました。



素敵な人々との出会いに感謝

国際教養学科 東アジア地域研究履修コース

大久保くるみ

2013年の入学から、長いようで振り返るとあっという間の短い四年間でした。一年次の寮生活から始まり、アルバイトにAEP、季節毎のイベント、友達との遊びや講義・ゼミ、楽しいことばかりではなく大変なこともたくさんありましたが、それをすべて良い思い出にできたのは今

まで出会ってきた方々との関わりのおかげだと思いました。友人や先輩・後輩、先生、サークルや部活動に所属していなかったものの、多くの素敵な人々といい関係を築けて、これからもその関係が続くと思えることに感謝です。

そして最後にその人々に出会うチャンスを与えてくれたこの大学の環境、大学に通わせてくれた両親に感謝の意を表し、締めさせていただきます。ありがとうございました。



大学生活を振り返って

国際教養学科 国際関係履修コース

萩岩絵里花

大学生活は、本当にあっという間の4年間でした。親元を離れての寮生活では、最初は不安があったもののすぐに友達もでき、試験勉強なども協力して対策を練っていたのを覚えています。

大学に入学したからには、何か一つ自分から一歩踏み出してみたい、という思いもあり1年後期から3年後期の5期にわたりJD-Matesの活動に携わりました。留学生が日本で生活しやすいようにサポートするだけでなく、私自身も彼女たちの国について興味を持ち、海外をとても身近に感じられる環境がありました。語学研修でドイツに行った折には、仲良くなった留学生と再会できたことに感動し、少しの勇気を出して応募したJD-Matesでの経験が、世界とつながる楽しさを私に教えてくれたように思います。

日々の勉強においても、全てが興味深いものでした。ゼミでは「食べ物

から見た国際関係」のテーマのもと、砂糖・コーヒー・エビについてメンバーとともに学びました。食べ物1つをとっても、複数の国家、多様な人々の関わりによって私たちの手元に届けられています。この研究を通して、買い物をする時には「この商品の原産国はどこだろう?」「どんな人が生産したのだろう?」と考えるようになり、外国との関わりなしではいられない日本の現状も改めて実感することとなりました。



大学での学びは、私自身のものの見方や考え、捉え方を多様にしてくれました。今後も広い視野で何事にも興味関心を持った社会人になりたいと思います。



たくさんの出会い

国際教養学科 国際経済・マネジメント履修コース

慎原 晴香



私の大学生活は、学業、アルバイト、サークルの3つが大きな柱になっていました。その中で、沢山の出会いがあり、この出会いは現在の私の大きな財産となりました。大学では、授業や寮生活で友達とも家族のような関係になり、アルバイト

やサークルでは、先輩や後輩もでき、活動を通して仲間との強い絆ができました。私は、そんな友人達と旅行に行くのが大好きです。大学4年間で、国内国外、沢山の旅行に行きました。初めて見る景色や美味しいものを満喫して、自分たちの計画で行きたいところへ行く。これは自由な時間が多い大学生活でしか出来ない経験だと思います。大学4年間、自分の好きなことに思う存分時間を使って取り組んでみてください。



大学生活を振り返って

大学に入学してからの4年間、月日の流れが大変早かったように思います。遠い国から来て心細かった私はたくさんの人に支えていただいたおかげで大学の生活に慣れることが出来ました。今振り返って一番胸に浮かんでくるのは寮生活と研究室で過ごした時間でした。料理が大好きな私にとってルームメ



環境科学科 環境物質履修コース **グエン・ティ・トウ・タオ**

トと一緒に料理を作ったり食べたりしながら色々な話をする時間は言葉で表現できないほど幸せな時間になりました。本当に家族のようです。そして研究室で過ごした時間はたった1年間だけでしたが、一番私を成長させてくれた時間のように感じます。実験で何度もミスして落ち込んだ私を励ましてくれた先輩たちや友人、熱心にご指導をしてくださった先生たちに感謝する気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



研究室で過ごした日々

大学生活の中で一番心に残っていることは卒業研究です。高校までは答えのある問題を解いていましたが、卒業研究では誰も答えのわからない問題に取り組みました。思いうような結果が出ず、もうやめてしまいたいと思うことも多々ありました。その度に友達と励まし合い、先生から叱咤激励をいただきなんとか卒業論文を書き上げることができました。卒業研究を通じて、上手くいかなくてもあきらめずにとにかく何度もやってみることの大切さを学びまし

た。これからもコツコツと物事に取り組んでいきたいです。



環境科学科 環境生命履修コース **高橋 知愛**

充実した大学生活をおくれたのは家族、先生、友達、先輩・後輩、アルバイト先の方々のおかげです。ありがとうございました。



経験を力に

寮生活から始まり、やりたいことがどんどん増えていく4年間でした。特に卒業研究と、団地での取り組みが印象に残っています。朝早くから研究室に行き、多くの時間を費やして論文執筆に取り組み、調査では実際に現場で



環境科学科 環境生活履修コース **大谷紗友理**

働く看護師の方にアンケートを行い、とても有意義な研究を行うことができました。また、3年生から体験学習で団地コミュニティの活性化活動に参加し、教室では得られない多世代の繋がりを築くことができました。大学では、社会に出てからも必要なことを学び、自分が何をしたいかに気づくことができました。最後に、これまで支えてくださった家族、先生方、仲間たちに心より感謝いたします。ありがとうございました。



出会いに感謝

大学生活の4年間は長いようであつという間に過ぎていきました。入学したころは将来の目標もなく、親元を離れることなど不安がとても大きかったのを覚えています。しかし、辛いことも楽しいことも一緒に分かち合える友人に出会い、支えてもらったことで授業やバイト、就活など乗り越えることができました。また、いつも真摯に向き合ってくださった先生方からたくさんの事を学び、これからの糧にすることができました。これからもまだ不安なこ

とだらけではありますが、悩んで立ち止まった時に大学生活の思い出がきっと自分に自信をくれるものだと思います。最後に、これまで支えてくださった先生方、友人、家族に心より感謝いたします。



環境科学科 国際環境政策履修コース **柴原 芙美**



人とのつながり

「食べることが好き」という単純な気持ちから私はこの食・健康学科を選びました。大学では、予想以上に実験のレポートや講義の多さなどに苦戦したこともありましたが、すごく大切な必要な学びであったと今なら自



信をもって言えます。4年間の大学生活を通して、「人とのつながり」の大切さを強く感じています。遠くにいてもいつも心配してくれる家族、側で見守って下さる先生方、正面からぶつかってきてくれる苦楽を共にしてきた友人達、他にもさまざまな場面で人と出会い、そのおかげで今の私があります。4年間という長いようであつという間の貴重な大学生活を過ごせたことにまず感謝し、これからは私が恩返しをしていきたいと思っています。

食・健康学科 **志水 花菜**



修了生の声

大学院生活を振り返って

人文社会科学部 言語文化専攻 日本語文化コース 辺 紅梅



日本に来たのが昨日のこのようですが、あっという間に7年半になりました。日本に来たばかりの時は日本語が全然できませんでした。今は修士論文も書けるようになり、7年半勉強した甲斐があったと思います。何よりも長い間、先生方の暖かなご支援をいただいたおかげだと思います。

大学を卒業して就職と進学に悩みましたが、やはり日本語教育

について勉強したい気持ちが強かったため進学に決めました。この2年間自分が目指した分野でいろんなことについて勉強したので充実した学生生活だと思います。また、日本語についてより深く研究することによって、日本語の難しさと教育にあたって、教授方法と教授の必要性・重要性についても前より分かるようになり、教壇を踏みたい気持ちがより強くなりました。

日本語教育現場で教えたことがないので、去年タイでの実習がよい経験になったと思います。

最後に、この2年間熱心にご指導してくださった橋本先生をはじめ、発表の際に貴重な意見をくださった先生方に心より礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



大学院生活を振り返って

人間環境科学研究科 人間環境科学専攻 環境自然科学領域 浜田 萌衣

私は小さい頃から環境問題に興味があり、環境の分野で活躍できる研究者を目指したいと思い、大学院への進学を決めました。周りの友人たちが就職する中、大学に残ることへの不安はありましたが、ここで得た新たな学びや出会いは自分にとってかけがえのない大切なものとなりました。

研究では、幹線道路周辺における大気粒子をテーマに、様々な経験を積みながら関連する専門知識の理解を深めることができました。春からは、ここで培った知識や心を



胸に、より環境にやさしい社会の構築に貢献できるよう頑張っていきたいと思います。

学部時よりご指導くださった馬先生をはじめ、環境科学科の先生方、並びに大学職員の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



充実、有意義な大学院生活

人間環境科学研究科 人間環境科学専攻 環境マネジメント領域 呉 媛媛



2011年4月、私はわくわくした気持ちで福岡女子大学に入りました。たいへん楽しい大学生の時間を過ごしました。大学院時代には、構内では様々な先生方だったり充実した研究室・資料だったり、同じようなことを目指す同期だったり、外に出ればあるいはボ

ランティアやインターンの経験だったり、自身をとりまいていけるものが代えがたいものでした。大学院の中では自身の研究以外にも触れる機会が多くあり、また新しいものを取り入れるチャンスになります。

最後になりますが、留学生である私に、担当の大中先生が親切、丁寧に指導してくださって、心より感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。



学生生活を振り返って

人間環境科学研究科 人間環境科学専攻 栄養健康科学領域 岡本 彩希

私は福岡女子大学で学部4年・修士2年の計6年間学びました。大学院への進学を決めた理由は学部で取り組んだ卒業研究が面白く、もっと深く研究したいと思ったからです。大学院では、食物に濃縮されるアミノ酸神経毒がどのような機構で毒性を発揮するのか研究を行いました。研究を行う中で実験がうまくいかず、苦しい時期もありました。しかしこの時期があったからこそ、重要な課題を見つけて解決していく力や、論理的に考える力を養うこ



とことができました。

来春からは社会人となり、長く在籍した福岡女子大学を離れます。学生生活での経験を糧にこれから頑張っていきたいと思っています。最後になりましたが、ご指導いただいた先生方に心よりお礼申し上げます。





退職にあたって

退職にあたって

国際教養学科 教授
大住 圭介



2012年4月に国際文理学部国際教養学科の経済学の教員として赴任し、5年が経過し、退職を迎えることになりました。5年を振り返って最も印象に残っていることは、ゼミでの学生との活発なディスカッションです。ゼミでは、参加者全員で、世界経済で話題になっている（国際開発、デジタル革命の経済分析等の）最新の書物を丁寧に検討しました。ゼミの毎時間、殆どの学生が自分の経験との関連でテーマに関して明確に自分の見解を展開してくれ、印象深い5年間で過ごすことができました。最後になりましたが、教職員の皆様方には種々の面でお世話になり、感謝しています。今後、皆様方の一層のご活躍と福岡女子大学の益々のご発展を祈念しています。

5年間お世話になり ありがとうございました

国際教養学科 教授
塩次 喜代明



良かったこと

学生に恵まれ楽しく授業ができたこと、ゼミ生が希望する進路に巣立ったこと。
女性リーダー育成関連科目を新設できたこと。
学科長として円滑な学科運営ができ完成年度を迎えられたこと。
人文社会科学研究科新設に尽力し、指導院生2名を迎えたこと。

残念なこと

何かにつけて古い皮袋に新酒を注いだような味がすること。パワーとリーダーシップ、ガバナンスとマネジメントの区別が大事だと感じるが多かったこと。研究時間が乏しかったこと。

これからのこと

私も巣立ちます。新しい学び舎が、青春の舞台として美しく輝くことを祈っています。研究なくて教育なしの私の信条は不変です。もう少し頑張ります。

充ちたりて

国際教養学科 教授
向井 剛



何が?と問われそうです。2003年、ときの文学部に赴任してからの14年間、本学で教育研究につく幸運に恵まれました。熱心で知的好奇心に富む学生・院生や同僚との交流から、私自身の学問的関心に幅と深みが生れました。卒論ゼミ、大学院の演習、論文指導は、精一杯向き合ったものの思いの分、いっそうかけがえのない時間を過ごせたと思えます。2011年の国際文理学部の新設、2015年の新大学院設置、そしてその運営の一端を担う役回りとなり、静から動の激変を経験することとなりました。一方で、国際交流の舞台にも上がる機会を与えられました。欧米に目を凝らすだけであった私の世界は、アジアへの共感を知ることとなりました。充ち満ちた人生の区切りです。

退職にあたって

国際教養学科 教授
矢野 準



平成5年に福岡女子大に参りましたが、瞬く間にこのような次第に相成りました。今の心境を、戯れに作(もの)してみます。

さてもまあ よくも過ぎたり 美し日が
何があろうと 樂に暮らそう

兎にも角にも、「線香の煙とともに灰さようなら」といったことにもならず、細かな過ちや失敗はありましたが、大過なくここまで来ました。或人の「無事生きて定年を迎えられることに感謝すべきだ」の言を、かみしめつつ、気楽に生きていこうと思っているところです。

とど、女子大学及び皆様の「長寿とご繁栄を」というこなしあって、うすどろにて立ち消えがするという感じで幕。

退職にあたって

環境科学科 教授
佐藤 一紀



平成12年4月に大学院新設に伴い、環境有機化学担当の教員として赴任しました。三菱化学生命科学研究所という民間からの転職で、当初は戸惑いもありましたが、同僚の先生方の支援のおかげで何とか17年間を無事に終えることができそうです。研究のペースは落ちましたが、それでも女子大で40報以上を出すことができました。教育という意味で印象に残っているのは国内7大学9研究室の参加を得た「泉屋コロキウム」の創設です。これは夏休みに一泊する合宿形式の研究発表の場で、発表者、座長、質問者と全てが学生主体に行われます。楽しい思い出になりました。最後になりましたが、福岡女子大学の益々の発展をお祈りします。



退職にあたって 元気な学生との21年間

環境科学科 教授
大中 忠勝



1995年4月、人間環境学部の開設と同時に、生活環境学科の教員として赴任しました。女子大での教育・研究活動は、待ってくれていた家政学部の2名の学生とともに始まりました。2000年、海外研修でイギリスに滞在した1年間以外の20年間、修論生5名、卒研生118名が研究室に在籍し、一緒に研究を行ってきました。研究室に在籍した学生は、優秀で、特に元気いっぱいの女性でした。教育・研究活動が曲りなりにも行えてきたのは、彼女らのおかげだと感謝しています。在学生、新たに入學して来る学生も、先輩同様、バイタリシティに溢れていると思います。教育環境の整備が進んでいく中で、彼女らが社会で活躍できるような教育がなされることを信じています。

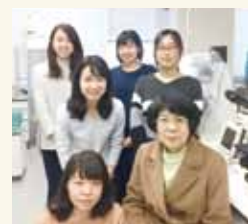
退職にあたって

環境科学科 教授
山田 真知子



皆様、この11年間大変お世話になり、ありがとうございました。福岡女子大学での業務はこの上なく充実したもので、何よりも魅力的な先生方をはじめ職員の方々、愛すべき多くの学生さんたちに巡り合えて、非常に幸せでございました。胸をときめかしながら「生物と環境との関係」についての実験や調査研究を行えたのも、皆様のおかげと感謝しているところです。

これからの私の人生でございますが、高校生の頃からあこがれていた生活に入ろうと思っています。それは、自分の思う「仙人」の生活です。そのため、失礼をしてしまうことが多々あるかと存じますが、どうぞお許しください。皆様の今後のご健康と一層のご活躍を、心から祈念しております。



3年半の研究休職を終えて

環境科学科 准教授
岡山 俊直



過去3年半の間、環境省からの研究休職、出向という形でお世話になりました。この間に国際文理学部の第一期～第三期の卒業生を送り出すことができたことを大変光栄に思います。

個人的には、過去3年半で3本の査読付を含む6本の論文を執筆することができ、さらにその成果を国立公園管理の現場にフィードバックすることができました。休職中の研究成果を実際の環境政策の現場に活かすという、研究休職制度の理想的な形を作れたと思っています。これもひとえに本学の教職員、学生の皆さんのおかげです。今後も、本学における研究成果を環境政策の現場に活かすべく、努力していきたいと考えています。

3年半、本当にありがとうございました。

33年間 お世話になりました

食・健康学科 教授
早瀬 仁美



33年間で瞬く間に過ぎてしまいました。その間、多くの先生や職員、同窓会そして学生の皆様との出会いがあり、お世話になりました。特に165名の卒論生と48名の院生・研究生、そして歴代の助手の先生方とは、研究や実践活動などを通して、有意義な時間を共有し、多くの成果を挙げることができました。卒業生や大学院修了生の第一線での活躍が、私のエネルギー源になりました。また、食育五輪や減塩サミット等全国規模の産官学連携事業や学術総会開催に当たりましては、本学関係者はもちろん、企業、行政、学会関係者の皆様に多大なるご協力ご支援を賜りました。今まで温かく見守って下さった多くの皆様様に心から感謝申し上げます。



ありがとうございました

食・健康学科 助手
山内 良子



ご縁をいただき福岡女子大学に着任してから、あっという間の5年間でした。「食」という共通点はあるものの、幅広い分野を担当することに不安と緊張を抱きながら始まった教員生活でしたが、良い先生方や職員の方、なにより、明るく、エネルギーにあふれた学生たちに支えられた毎日は、充実したものでした。縁というものは不思議なもので、思わぬところからやってきて、思わぬところに広がっていくものだと感じています。福岡女子大学でいただいた沢山のご縁を大切に、これから歩んでいきたいと思っています。今後、福岡女子大学がより一層地域社会に根をはり、魅力あふれる大学へと発展して行くことを願っています。ありがとうございました。



国際化社会と 福岡女子大学に 想いを寄せて

食・健康学科 准教授 水元 芳



光陰矢の如し、を実感する福岡女子大学での7年間でした。2015年9月、「持続可能な開発目標 (SDGs)」がNY国連本部で採択されました。経済成長、社会開発、環境保全を主軸に、女性のエンパワメントや栄養改善に関する指標も掲げられています。SDGsにおける日本の役割は、国際的な枠組と地域課題をつなぎ、世界に発信していくことと言われています。「地域社会や国際社会への貢献」という高い志を持った学生たちを、次代のリーダーとして世に送り出す本学の取り組みはまさにSDGsでの日本の役割の一環を担うものです。このような大学で経験させて頂いた7年間に深く感謝すると共に、本学卒業生の今後益々の活躍をお祈りいたします。



FWU girls, be ambitious.

共通教育機構 講師
Bruno CHRISTIAENS



When I joined Fukuoka Women's university in April 2010, barely any foreign students were on campus and outbound exchange was limited to one exchange partner university. I am glad that in the past 7 years I could actively participate in making FWU a more international environment. In my role of international program coordinator I was privileged to experience this buildup from scratch and now students can go study at top level universities in Sweden, Denmark, Iceland, the U.K., New Zealand and India, or take part in English Village whilst staying in Japan.

In April 2015 I became part of the AEP team as an Assistant Professor and for the past two years I truly have enjoyed providing students with language tools that I believe will aid them in their future career.

Both functions have taught me many lessons that I hope to employ in the future. In the meanwhile, I wish FWU all the best in light of its upcoming 100th anniversary.

TOPIC 1

熊本県立大学と学術連携協定を締結しました

2017年1月19日、日本語・日本文学の分野で、教育、研究にわたり協力し、学術の発展と人材の育成に寄与するため、熊本県立大学と学術連携協定を締結しました。

熊本県立大学と福岡女子大学は、ともに公立大学という地域に根差した大学で、両大学とも長年、日本語・日本文学の教育・研究に力を注いできました。そうした実績を踏まえ、日本語・日本文学の分野での交流から始め、将来はさらに連携の分野を広げていき、両大学の間関係を築いていきたいと考えています。

今後は、教員の学術上の連携だけにとどまらず、両大学の学部学生・大学院生相互の交流も推進していく予定です。



梶山 千里 学長

熊本県立大学
半藤 英明 学長

TOPIC 2

文化芸術推進事業事務局 松田 典子

文化庁 平成28年度 大学を活用した文化芸術推進事業 「受講生による実施企画」と「特別講演会」

文化庁 平成28年度 大学を活用した文化芸術推進事業の採択を受け、2016年7月30日より「地域文化熟成を担うアートマネジメント人材育成プログラム」を実施してきました。プログラムの実践演習として、学内美術館を利用した学内企画「未来へのおくりものいこうよ*びじゅつかん」と「視覚を超える。」、学外企画の「アートかきぞめ」と題したUR都市再生機構とのコラボレーションが受講生自身の手で実施され、いずれの企画も非常に充実した内容になりました。

2017年1月6日にはサグラダ・ファミリア芸術工房監督の外尾悦郎氏による講演会が福岡銀行本店地下FFGホールにて開催されました。聖ファミリア教会制作へのガウディの意図と、それを踏まえた外尾さんご自身の想いなどがユーモアを交えた語り口で話され、1時間30分の講演会は大盛況で幕を閉じました。



外尾氏による特別講演



「いこうよ*びじゅつかん」



「視覚を超える。」



「アートかきぞめ」

TOPIC 3

客員教授就任について

2017年1月、元福岡県副知事で、福岡県女性財団理事長の海老井悦子氏、サグラダ・ファミリア芸術工房監督の外尾悦郎氏、本学卒業生で料理研究家・管理栄養士の村上祥子氏の3名が客員教授に就任しました。

今後、客員教授として授業や講演を行っていただく予定です。



▲海老井悦子氏



▲外尾悦郎氏



▲村上祥子氏

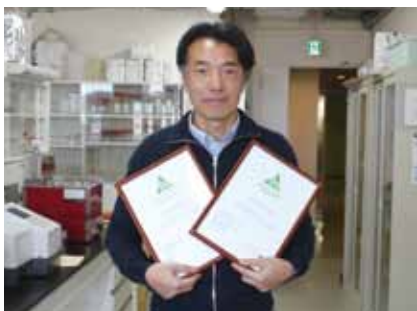
TOPIC 4

食・健康学科 准教授 石川 洋哉

ウッドデザイン賞を2年連続受賞 (木の家と健康を科学するプロジェクト)

「本物の無垢材の家は、人にとって本当に良いのか？」素朴な疑問から始まったプロジェクトでした。プロジェクトでは、「無垢材(天然津江杉)」と「新建材」を用いて、「見た目の印象が全く同じ」建物を2棟建設し、室内空間に居住するヒトの心理・生理応答の計測と、空間中の温度・湿度・揮発性成分の分析等を行い、「無垢の家が人に与える効果を科学的に検証」しています。本成果が認められ、ウッドデザイン賞2016を受賞しました。ウッドデザイン賞は、木の良さや価値を再発見させる製品や取組について与えられ

る賞で、九大、近畿大、安成工務店、トライ・ウッドとの共同プロジェクトとしてハートフルデザイン部門で2年連続入賞しました。私の本職(?)は食品科学者ですが、揮発性成分(におい・香り成分)分析の専門家として参加しています。本取り組みは、医学、農学、脳科学、心理学、生理学分野等の専門家と企業が協力した「文理融合型」の「学際的産学連携プロジェクト」で、今後より大きな成果を残し社会に貢献することを目指します。



本プロジェクトでは、「見た目の印象が同じ」建物2棟を建設。「無垢材(津江杉)」を内装に用いた建物と、表面が塗装やクロスで覆われている「新建材」を用いた建物。



TOPIC 5

女性キャリア支援センター 女性学び直し支援室 岸 智子

1月25日(水) 社会人学び直しシンポジウムを開催しました

1月25日(水)、「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」の事業報告を兼ねたシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、プログラムのターゲットや目的、内容、2年間の事業成果報告に加え、大人の学びがもたらす効果について、株式会社タントビーバ 取締役 板谷和代さんの基調講演、九州産業大学経営学部産業経営学科教授 聞間理さんの研究成果報告、修了生によるパネルディスカッションを通じて、深めていきました。社会人の「学び直し」は自分自身の中にある「よいもの」(経験)をほぐして、自信にすることと言えるでしょう。修了生の皆さんのお話からは、学ぶことによって得られた自信とわくわく感が伝わってきました。

多くの方にお越しいただき、あらためてこのプログラムの関心の高さを感じることができました。

ご来場いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。



TOPIC 6

女性キャリア支援センター 女性学び直し支援室 岸 智子

「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」の成果発表会を行いました

2月4日(土) 学び直し大学院プログラム「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」の成果発表会を行いました。

モジュール1では、ファシリテーションを通じてチームでの協働を学び、モジュール2ではリサーチを通じて新たな機会を発見し、アイデアを創出するデザイン思考のプロセスを学びました。モジュール3では、受講生一人ひとりが抱える問題意識をテーマに、その問題を解決するためのプランを練り上げました。

全6チームの発表は多様なテーマが取り上げられ、ポスターを用いたフィードバックセッション

では実現に向けてのアドバイスが熱く繰り広げられていました。問題を見つけ解決していく力を養うこのプログラムも無事に第2期を修了することができました。

このプログラムの運営にご協力、ご尽力いただきました先生方、関係者の皆様に熱く御礼を申し上げます。



Activity 1

福岡県議会を訪問して



国際教養学科3年
藤掛 愛

昨年12月、吉田先生の引率で福岡県議会を傍聴する機会に恵まれました。当日は伊豆美沙子議員が数少ない女性議員としての困難ややりがいを

私たちにお話くださった後に議会を傍聴、さらに小川県知事への表敬訪問も実現しました。知事からは女子大の改革への期待の言葉が寄せられ、私たち一同身の引き締まる思いでした。

私たちは自ら議会へ足を運ばなければ、政治を動かしている方々が実際にどのように働いているのか、どのような考えをお持ちなのかを知ることは難しいと思います。選挙権年齢が18歳に引き下げられた今、県議会を傍聴することは、市民が主体的に政治へ参加する手段として非常に有効なものであると実感しました。

今回、このような特別な機会をくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



Activity 2

7人でつないだ42.195km



昨年の11月に開催されたアイランドシティリレーマラソンに参加しました。メンバーは走ることが大好きな5人の福岡女子大学生と吉村先生と私との7人で、42.195kmを完走

しました。走っている時は、メンバー全員が応援して、楽しみながらよい雰囲気の中で走ることができました。最初は時間内に42.195km無事完走できるか不安がありましたが、メンバーの頑張りにより完走することができました。みんなで走り終えた時の達成感は今でも忘れられません。アイランドシティで開催され、地域の活動に参加することで、大きな体験をすることができました。来年も参加しようと思っているので多くの方が参加してまた、福岡女子大学チームとして出場できたらいいと思います。



環境科学科2年
山口 尊鈴

福岡女子大学 平成29年度公開講座のご案内

福岡女子大学では、地域の皆さまの生涯的な学習に貢献するため、毎年、様々な公開講座を企画実施しています。どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお申し込みください。

A「How to Learn English Effectively」

福岡女子大学の学部生1～2年生が履修する英語力習得のためのAcademic English Programを担当する専任講師による英語講座です。

受講料：各回500円（3回分まとめて申込の場合は1,000円） ※高校生・本学学生無料

定員：30名 対象：TOEIC 400点以上もしくはそれと同等以上の英語力をお持ちの方

講座番号	日 程	テーマ	概 要	講 師
A-1	6月10日(土) 10:00～11:30	Learning English through Literature	In 3 lectures, each AEP instructor will each explain one facet of how people can improve their daily English learning skills. As most of the lectures will be given in English, participants are required to have intermediate English comprehension skills.	大谷 英理果 (AEP instructor・学術英語専任講師)
A-2	6月17日(土) 10:00～11:30	Learning English through Extensive Reading		Arina BRYLKO (AEP instructor・学術英語専任講師)
A-3	6月24日(土) 10:00～11:30	Learning English through Confident Speaking		Timothy PRITCHARD (AEP instructor・学術英語専任講師)

B「エネルギー政策と原子力の危機管理」

受講料：500円 ※高校生・本学学生無料

講座番号	日 程	概 要	講 師
B	7月28日(金) 13:30～15:00	本講座では、福島原発事故の現場を踏まえて、日本のエネルギー問題の今後について考えていきます。	藤岡 祐一 (環境科学科教授)

C「充実した暮らしをサポートするまちづくり：有機的な地域システムとは」

受講料：500円 ※高校生・本学学生無料

講座番号	日 程	概 要	講 師
C	9月2日(土) 10:00～11:30	本講座では、将来に向けた様々な課題を背景に踏まえながら、1人ひとりが生きがいをもって暮らすことのできるまちづくりについて、一緒に考えていきます。	中村 大輔 (国際教養学科准教授)

D「ドイツ映画Ⅱ：移住背景を持つ監督の映画」

最近、ドイツの難民の受け入れが話題になり、異文化圏の難民・移住民がドイツ社会に適合できるかと疑問視されています。そこで、本講座では、移住背景を持つ監督のドイツ映画を通して、移住民の現状や問題、ドイツ文化への貢献について考えていきます。

受講料：各回500円（4回分まとめて申込の場合は1,500円） ※高校生・本学学生無料

講座番号	日 程	テーマ	概 要	講 師
D-1	9月29日(金) 16:30～18:00	第1回 「ドイツの移住民」	ファティ・アキン監督：『愛より強く』(2004年) 解説と映画鑑賞	Sven HOLST (国際教養学科准教授)
D-2	10月6日(金) 16:30～18:00	第2回 「移住民についての映画、移住民よりの映画」	ファティ・アキン監督：『そして、私たちは愛に帰る』(2007年) 解説と映画鑑賞	
D-3	10月13日(金) 16:30～18:00	第3回 「移住民の文化貢献」	ファティ・アキン監督：『ソウル・キッチン』(2009年) 解説と映画鑑賞	
D-4	10月20日(金) 16:30～18:00	第4回 「移住国ドイツはこれからどうなる」	ヤセミン・サムテリ監督：『おいしいちゃんの里帰り』(2011年) 解説と映画鑑賞	

E「韓国の裁判制度における『司法の反日化』という現象」

受講料：500円 ※高校生・本学学生無料

講座番号	日 程	概 要	講 師
E	2月17日(土) 13:30～15:00	慰安婦や領土問題などで韓国政府が「反日化」へと傾斜した主な要因としては、韓国の裁判所による司法的な影響があるといわれています。今回は、韓国における司法の役割とその問題性を明らかにします。	岡 克彦 (国際教養学科教授)

※講座名が変更になる可能性があります。

【備 考】

- *性別・年齢を問わず受講できます。
- *各回申込みとするか、まとめて申込みとするかは、申込み時にお知らせください。まとめて申込みの受講料のお支払いは、シリーズの初回のみ受け付けします。(最終回での割引額返還等はいたしません。)
- *会場は、A講座は福岡女子大学研究棟LL教室、B～E講座は福岡女子大学地域連携センターを予定しておりますが、変更になる場合があります。
- *学内には駐車場が十分にございませんので、恐れ入りますが公共交通機関をご利用ください。
- *悪天候等により、講座日時が変更になる場合があります。詳細はお電話等でお問い合わせいただくか、ホームページをご確認ください。
- *講師や他の受講生に迷惑となるような行為、講座の進行を妨げるような行為を行った場合、受講をお断りすることがあります。このような場合でも、納入された受講料は返還いたしません。
- *講座中の傷病について、本学として責任を負いかねる場合がありますので、お体の不調や異常を感じた時は参加を見合わせるなど、自己の責任において健康管理に十分ご注意ください。
- *講座中の盗難、通学途中の傷病、その他の事故について、本学は一切責任を負いません。

申込方法

- *E-mail、Fax、ハガキのいずれかに、① 希望講座番号、② 氏名(フリガナ)、③ 住所、④ 電話番号、⑤ 年齢、⑥ Fax番号(Fax申込みの方)をご記入の上、地域連携センターまでお申込みください。お電話でも受け付けております。
- *受講証は発行していません。また、定員のある講座のみ参加可否をお知らせしています。(定員のない講座は申込みいただいた方全員が参加できます)

- センター内託児室にて、託児サービスを行っています(業者委託/先着5名・無料)。利用を希望される方は、講座開催日の10日前(土日祝除く)までに、直接委託先へお電話ください。費用は大学が負担します。

<委託先> (株)テノ・サポート

〒812-0036 福岡市博多区上呉服町10-10
☎0120-8000-29 (受付時間：平日9時～19時)

【お申込み・お問い合わせ】 福岡女子大学 地域連携センター 〒813-8529 福岡県福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
TEL:092-661-2728(直通)/092-661-2411(代表) Fax:092-692-3220
E-mail:rcle@fwu.ac.jp URL:http://www.fwu.ac.jp/collaboration/

★ご提供いただいた個人情報は、公開講座等の実施・運営、地域連携センターからのご案内等に使用させていただきます。他の目的には使用いたしません。

「福岡女子大学 国際化推進基金」 ご寄附へのお礼とお願い

平成23年4月の新学部（国際文理学部）の発足に伴い、その教育理念をより強力に実現するため、大学の国際化を積極的に推進することを目的とした「福岡女子大学 国際化推進基金」を創設し、平成22年12月から寄附金の募集を開始しております。

これまでに、本学卒業生の皆様を始めとして多大なご協力・ご支援を賜っており、ご寄附を頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。

本号では、平成28年9月1日から平成29年2月28日までにご寄附を頂いた皆様のうち、掲載についてご了解を頂いた方々のご芳名、寄附金額をご紹介しますいただきます。

今後とも、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載についてご了解いただいたご寄附者様

※（ ）内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

〔5万円以上30万円未満〕	〔5万円未満〕
池 野 京 子様 (2)	菅 原 美吉子様 (3)

2. お名前だけの掲載についてご了解いただいたご寄附者様

※（ ）内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

中 村 優 子様 (1)	辻 村 克 江様 (4)
有 馬 総 子様 (1)	藤 多恵子様 (3)
古 屋 和 子様 (2)	菊 池 千佐子様 (3)
須 藤 壽 恵様 (6)	

福岡女子大学 国際化推進基金 ご寄附の状況

(平成29年2月末日現在)

年 度	寄附件数	寄附金額
平成28年度	114件	3,693,000円
総 計	1,391件	35,501,000円

※総計は平成22年度から平成28年度まで

「福岡女子大学 国際化推進基金」についての詳しい情報については、大学ホームページをご覧ください。か、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いします。

福岡女子大学
国際化推進
基金に関する
お問い合わせ先

公立大学法人福岡女子大学
福岡女子大学 国際化推進基金事務局
〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
TEL:092-661-2411(代表)
FAX:092-661-2420
E-mail: fukujokikin@fwu.ac.jp

人事消息

退職 予定

(平成 29 年 3 月)

国際教養学科	教授	大住 圭介
国際教養学科	教授	塩次喜代明
国際教養学科	教授	向井 剛
国際教養学科	教授	矢野 準
国際教養学科	准教授	張 艶
環境科学科	教授	佐藤 一紀
環境科学科	教授	山田真知子

環境科学科	教授	大中 忠勝
環境科学科	准教授	岡山 俊直
食・健康学科	教授	早淵 仁美
食・健康学科	准教授	水元 芳
食・健康学科	助手	山内 良子
共通教育機構 (AEP 担当)	講師	Bruno CHRISTIAENS



公立大学法人
福岡女子大学
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
TEL 092-661-2411 (代表)
URL <http://www.fwu.ac.jp/>

〔編集発行〕

入試・広報・キャリア支援センター